お祖師さまの教えを正しく受け継がれた先師先聖物語 第7回

お祖師さまがお亡くなりになる際、帝都・京の都にご弘通ご奉公を命じられたのが、当時、まだわずか十二歳であった経一麿、のちの日像上人なんだ。日像上人は、お祖師さまのご命令を果たすべく、さまざまな厳しい修行に立ち向かって行かれたんだね。

今回は、日像上人のご誕生と生い立ち。そして、帝都（京都）へのご弘通ご奉公の開始までのお話だよ。

日像上人 ①

日像上人の生い立ち

日像上人は下総平賀の郷（今の千葉県松戸市）に、父親を平賀忠治、母親を妙朗尼（母親は日昭上人（六老僧の一人）の妹）として、文永六年（一二六九）八月十日に生まれられ、万寿麿と名付けられたんだ。

日像上人の母親（妙朗尼）は、また日朗上人（六老僧の一人）の母親でもあるんだよ。つまり日朗上人と日像上人は、お父さんの違うご兄弟ということになるんだ。

六歳の時、兄に当る日朗上人の勧めでお祖師さまのいらっしゃる身延山（山梨県）に登られたんだ。そこで、万寿麿をご覧になられたお祖師さまは「この子はのちに法華経を弘め、天子（天皇）さまにも御題目を伝えるであろう！」と大変に喜ばれたんだ。そして、お祖師さまから親しく「経一麿」と、名前を新たに付けていただかれたんだ。

日像上人の誕生の日に清水が湧き出たと伝えられている所がこの井戸。千葉県松戸市・本土寺境内

お祖師さまより帝都弘通を命じられた僅か12歳の経一麿

帝都弘通が命ぜられる…

経一麿は、お祖師さまの門下に入り、お祖師さまのお給仕をされながら、いろいろな教育を受けられ勉強されたんだ。

お祖師さまがお亡くなりになられる五日前の弘安五年（一二八二）十月八日。

十二歳の経一麿は、お祖師さまから直々に枕元に呼ばれ「帝都（京都）に御題目を弘めなさい。天子さまに御題目をお勧めしなさい」と命じられたんだ。お祖師さまは、経一麿少年の非凡（普通より特にすぐれていること）な才能を見抜かれていたんだね。

お祖師さまが亡くなられた後、経一麿は日朗上人のお弟子となり修行に励まれるんだ。そして成長されるに伴い「日像」とお名前を変えられたんだ。

日像上人は、お祖師さまのご命を実現するために、昼は御題目口唱に励み、夜は冷たい海水をあびての苦行（肉体を苦しめる修行）を行ったりと、さまざまな困難に耐えられるよう身心を鍛えられたんだ。

厳しい修行に励むこと十数年。ついに永仁元年（一二九三）、師であり兄でもある日朗上人や母親の妙朗尼と別れを告げ、鎌倉を出発し房州（千葉県南部）、伊豆（静岡県）、身延（山梨県）、佐渡（新潟県）と、お祖師さまがご生涯に廻られた全ての所を参詣され、そして、いよいよ帝都（京都）に入られることを決意されたんだ。

永仁二年（一二九四）、お祖師さまの十三回忌の年。この年の四月二十八日（お祖師さまが初めて御題目をお唱え下された立教開宗の日）に、日像上人は京都での御題目を弘めるご奉公をスタートされたんだ。

京都・宝塔寺の境内にある日像上人の経一麿時代のお姿像

本土寺本堂。日像上人のお生まれになった下総平賀の地（千葉県松戸市）は、現在は本土寺というお寺になっている